

「庭のレンゲショウマ」

レンゲショウマ(蓮華升麻)はキンポウゲ科の野草です。初秋に薄紫色の可愛らしい花をつけます。一度この花を見ると、誰もがその美しさに魅了されてしまうでしょう。これがコスモスのようにどこにでもあれば、面白くもないのですが、これがどこにでもある植物ではないので、珍重されるのです。事実、県によっては絶滅危惧種に指定されている、貴重な植物です。

私の山荘の庭には一塊のレンゲショウマがあります。埼玉の叔父の家から株分けしてもらったものです。最初は数輪しか咲かなかったのですが、毎年種を落とすので年々増えて、今では100輪以上咲くようになりました。今年も美しい花をたくさんつけています。



「レンゲショウマ」(キンポウゲ科) *Anemonopsis macrophylla*

日本特産。誠に日本らしい気品に満ちた姿です。丸いのは実のように見えますが、これはつぼみです。種子は花のあとに、細長い鞘の中にできます。

浅間高原にはレンゲショウマの自生地がいくつか知られています。一番有名なのは鼻曲山(はなまがりやま)です。鼻曲山は北軽井沢の東側、高崎市(旧倉淵村)の境にある山で、天狗の鼻を思わせる特異な山容をしています。軽井沢駅からも見える山です。初秋にはこの花目的で、多くのハイカーや写真家が登山しています。私の鼻曲山に何度も登りましたが、残念ながらこの花の時期をはずしています。



「鼻曲山山頂」 浅間山や軽井沢市街地の好展望地です。(2007年撮影)



レンゲショウマの花は、うつむくように、必ず下を向いて咲きます。私は観察していて、そのわけに気づきました。高原の初秋は雨が多いです。下を向いていれば、雄しべや雌しべ、それに蜜腺は雨にぬれません。事実、雨が止むと、すぐに虫がやってきます。

「レンゲショウマの 花の中心部」

枝分かれした雌しべを、たくさんの雄しべが囲んでいます。下を向いて咲くので、蝶よりも蜂がよく来ます。確実に受粉するようで、秋にはたくさんの種をつけます。

秋になると、たくさんの種子をつけます。レンゲショウマは寒さに強い多年草なので、翌春にも芽吹きますが、種からも育てられます。ご希望の方には、種をお送りします。

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)